環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.５９
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043－246-2180
ＦＡＸ 043－246-6969

２００８年の年頭に当たって

千葉県環境生活部環境政策課長　平 井 俊 行

新しい年を迎えて、一月が経とうとしておりますが、環境パートナーシップちばの皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年３月には、千葉の幕張メッセを会場として「Ｇ２０グレンイーグルス閣僚級対話」が開催されます。この会議は、７月のＧ８北海道・洞爺湖サミットに先立ち、気候変動等を議題として開催されるものです。

県では、「Ｇ２０」が千葉県で開催されることを、県民の環境保全に対する機運を高め、全千葉県民の環境問題に対する取組を県内外へＰＲする大きな機会と捉えています。

昨年度も、環境パートナーシップちばの皆様のご協力もいただきながら、各種の「Ｇ２０ちば２００８」記念事業を実施してきましたが、Ｇ２０の直前の３月８、９日には、より多くの皆様にご参加をいただきながら、最大のイベントを開催したいと考えています。千葉からの県民の声をＧ２０に、そしてG8に、さらに国内外に届けたいと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

また、県では、昨年度から千葉県の環境施策の新たなマスタープランとなる「千葉県環境基本計画」の策定作業を進めておりましたが、このほどその案がまとまりました。

この計画案では、「ずっと豊かで安心して暮らしていける千葉の環境をみんなのちからで築き、次の世代に伝えていく」ことを基本目標としています。そして、その目標を①すべての県民が環境について考え、行動する、②あらゆる施策に環境の視点を入れるという２つを併せた「環境自治」という考えのもとで達成していくこととしています。このため、環境に関するそれぞれのテーマごとに、県民、ＮＰＯ等の民間団体、事業者、教育機関、市町村、県などそれぞれに望まれる具体的な行動を「みんなの行動指針」として記載するなど、各主体の自主的な行動に結びつく計画を目指しております。

これをよりよい計画とするため、２月初旬からパブリックコメントを行いますので、是非、皆様方の御意見をお寄せいただきたいと思います。

さらに、皆様の協力をいただきまして、昨年９月に新たな環境学習基本方針を策定することができました。今年は、これを踏まえて「持続可能な社会づくりに向けて、豊かな感受性を育み、問題解決力を身につけ、主体的に行動できる人づくり」をめざして、環境学習事業を推進していきます。さる１月25日には、第１回ちば環境学習ネットワーク会議に、県民・環境保全活動団体・学校・事業者・行政の各メンバーが集まり、環境学習の推進について話し合いました。このネットワーク会議がプラットフォームとなって、つながりがますます発展するようにしたいと考えています。

今後の環境施策の展開にあたって最も重要なことは、行政だけではなく、いかに多くの人々の具体的な行動を起こしていくかということだと考えております。各主体がそれぞれの役割に基づく責任を果たすとともに、連携・協働した環境保全の取り組みが求められています。

多様な主体をつなぎパートナーシップによる環境づくりを目指す環境パートナーシップちばの皆様の役割は非常に大きいと考えておりますので、更なる御発展と会員の皆様の御活躍を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

平成１９年度温暖化防止環境大臣賞受賞！

環境大臣賞授賞式に出席して

エコメッセ２００７inちば　実行委員長　加藤賢三

環境省では、平成１０年から、地球温暖化防止対策を推進するための一環として、毎年、１２月の地球温暖化防止月間に、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対して、地球温暖化防止活動環境大臣表彰を行っています。今回の平成１９年度環境大臣表彰については、ちょうど10年目にあたり、記念すべき出来事だと思います。

表彰式は、平成１９年１２月１７日（月）、１０時３０分から、会場となったＫＫＲホテル東京「孔雀」（１１階）で開催されました。当実行委員会からは、実行委員長、副委員長、事務局の三名が出席しました。式次第は、１．開会、２．環境大臣による表彰状授与、３．環境大臣による祝辞、４．受賞者代表による謝辞、５．閉会、というものでした。

環境大臣による表彰状授与のところで、エコメッセ ｉｎ ちば　実行委員会は、環境教育・普及啓発部門の三番目として、「持続可能な社会の実現」をメインテーマとして、市民･企業・行政の対等なパートナーシップにより委員会を組織して、環境見本市を毎年開催。幅広い世代の来場者に対する環境問題の普及啓発に貢献という受賞理由が読み上げられました。ちなみに、表彰の総数は３８件（個人、団体)、内訳は、１）「技術開発・製品化部門」：７件、２）「対策技術導入・普及部門」７件、３）「対策活動実践部門」：７件、４）環境教育・普及啓発部門：１４件、５）国際貢献部門：３件でした。

日本全国の「地球温暖化防止活動」３８件すべて、その活動内容を身近に聞く機会に恵まれたことは感慨深いものがありました。まず、活動の多様性、これは、対象となった部門の幅広いことに関連します。特に、今回の「環境教育・普及啓発部門」では、小学校と個人の受賞が多く、中でも学校関係が6割を占めていたことが印象に残りました。その中で、エコメッセ ｉｎ ちば　実行委員会は、市民・企業・行政との良好なパートナーシップにより、環境活動を幅広く普及啓発したことが、評価されたわけです。まさに、受賞はひとえに実行委員皆さまがたのご協力と感謝しています。このような、表彰をいただけるのは、活動団体としては大変励みになることで、2008年はさらなる飛躍にまい進したいと思います。

(参考)
「平成１９年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」
http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=9118

「平成 19 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞を祝う会」のご案内

１．日時　平成20年2月9日（土）
　　午後5時～午後8時
２．場所　幕張メッセ国際会議場１階
３．プログラム
　◇平成 19 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞報告(感謝の会)　午後 5 時～6 時
　◇お祝いの会（懇親会）午後6時～8時
４．会費　3,000円（当日お持ちください）

◆　ご出席の申し込みは
E-mail：kuwahatak@hotmail.com　にお願い致します。
なお、ＦＡＸの場合は、043-246-6969 宛に送信下さい。

ご出席いただけない場合は、祝う会にご参加の方々へメッセージをお寄せ頂ければ喜ばしく存じます。

花見川エコウォーキング
～花見川河口から紅葉の花島公園まで～

12月1日に環境パートナーシップちばの主催で、「花見川エコウォーキング」（講師：斉藤久芳氏［千葉市役所 公園建設課］）を開催しました。

花見川河口を後にし、サイクリングロードを歩き始めました。このあたりは埋立地で川幅も広く、コンクリート護岸が整備され、いかにも「新しい都会にある整備された川」という雰囲気です。

花見川の水質（ＣＯＤ）は、数箇所の定点観測の結果、決して良好とは言えませんが、最近は徐々に回復しつつあるとのことでした。

汐留橋で川の反対側に移り、湧き水（自噴井）を観察してから、諏訪神社を参詣しました。神社本殿では江戸時代の作と言われる精巧に彫られた見事な欄間や外壁を鑑賞することができました。また高台にあるため、境内から見る眺望がすばらしく、花見川を中心とした田園風景、木々に覆われた丘陵、幕張新都心の超高層ビル群などが一望できました。

亥鼻橋を渡り、花見川を左手に見て再び遡りました。神場公園の対岸付近ではカミツキガメの繁殖地が確認されたそうです。天戸大橋を過ぎる辺りまで来ると川相は一変し、幽谷深山の様相です。

やがて目的地の花島公園に到着しました。花島

橋の手前では現在、新たに公園を建設中ですが、バランスをとるのが難しい幾何学的な形をした遊具が設置してあり、子供たちが楽しそうに遊んでおりました。花島観音堂では、季節柄、イチョウやカエデが大変美しく色付いておりました。

天気にも恵まれ、紅葉を楽しみ、また偶然お会いした土地の方々のお話も伺うことができ、大変有意義な一日でした。

(文責：小関)

平成 19 年度(財)印旛沼環境基金助成事業成果報告会

1 月 24 日(木)　千葉県北総県民センターにて、成果報告会が開催されました。助成金を受けた 14 団体の内、半分は学校で残りの半分は市民団体です。ここ数年は、小学校から大学までと学校における環境教育への助成が増えてきています。環境パートナーシップちばは、「印旛沼をきれいにする活動」の報告をしました。内容は、夏休みの親子体験活動、印旛沼流域子ども会議、京葉地区のガールスカウト約150名で活動したチームマイナス 6 パーセント～私に出来ることさがし～、東京湾から花島橋までのエコウォーキングについてです。平成 19 年度の印旛沼をきれいにする活動の総括にもなりました。

印旛沼をきれいにする活動は、4 年間続いています。流域での親子体験活動、その活動を報告する子ども会議、広く啓発普及を願ったエコウォーキング等を主とし、屋形船から印旛沼を調査体験したり、浄水場や排水機場など施設の見学などその年の学びを加えてきました。

平成 19 年度は「印旛沼流域子ども会議」を子どもが主体となる子ども会議になるためと広く参加者を呼びかける方向を強めた年でした。また、平成 18 年度の助成金を受けて作成した「東京湾から印旛沼までの　わたしのエコウォーキングマップ」の検証の年でもありました。このマップについては、千葉市の「エコライフちば」「千都よみうり」「北総よみうり」など地域紙などにも掲載していただきました。マップを活用しながら自然、水、地域との関り、自らの生活観など「気づきマップ」になって欲しいと思います。更なる活用と印旛沼への啓発普及に努めたいと思います。審査員の方からは、親子で取り組む環境教育は高く評価され今後の励みとなりました。

他市民団体の発表には、本埜村白鳥を守る会「越冬する白鳥の保護」、NPO 法人八千代オイコスの「よみがえれ花輪川」、佐倉印旛沼ネットワーカーの会の「ナガエツルノゲイトウ・オニビシの植生調査」等の報告があり、調査、研究、環境教育が主となっています。審査員の方からもこの調査資料を広くお知らせすること、環境基金活動を広く知っていただく働きかけをしていく必要性を話されました。　　(文責：桑波田)

１２月環境パートナーシップエコサロン

日時：　１２月１２日(水)　午後６時３０分
会場：　船橋女性センター　第一会議室
話題提供：　土田茂通氏　NPO 法人千葉環境カウンセラー協議会
アースコン・マツド 代表
松戸ケナフの会 会長　etc.

市民団体がスムースに活動を続けていく為のノウハウについて、現役時代の経験を通して、主として現在活動を続けられている前記三つの市民団体との１０年間のかかわりを例に、夫々の団体の会員構成の違いによるマネジメントのあり方等をお話いただきました。

マネジメントを業としている人は数え切れないほど存在するし、マネジメントの方法はマネージャーの数丈ある中で、土田氏のマネジメントの原点は、熱波の中のナイジェリア、イラク、クエート。極寒の地ソ連・南ヤクート等の訪問経験を含めて、現役時代延長線上にありProject-Management にあるとの事。 市民団体に於ける資源の管理として、人、物、金、時間があげられるが、中でも人に関するトラブル以外は殆どないと言っても良いくらいやっかいであり神経を使うそうです。

土田氏の考え方は、身の丈にあった事業を仲良く、継続して、社会に役立つ活動を目指されています。即ち、
＊継続は力なりでＰＤＣＡを回し
＊身の丈にあった事業として金を残さず、赤字にしない
＊人の和(輪)を尊重して参加して楽しく、自己啓発も大事にする。
その様な市民団体になる事を目指されています。

『本日お話した事を通じて、「環境パートナーシップちば」の現状把握を行い、目的、活動指針等を再度見直して見てはいかがでしょうか。』と問題提起をされました。

(文責：石川)

２月　環境パートナーシップエコサロン

日　　時：平成２０年２月２６日（火）　午後６時半～８時半
場　　所：千葉市民活動センター　会議室
話題提供：中村　俊彦　氏（千葉県立中央博物館副館長）
タ イ ト ル：　「生物多様性と人類の危機」
内　　容：生物多様性について、主に係ってこられたところからお話していただきます。
参　加　費：　５００円（資料代）　　主催：環境パートナーシップちば
申し込み・問い合わせ　：　桑波田
TEL＆FAX：043-258-543　　E-mail：kuwahatak@hotmail.com

お知らせ

「生物多様性ちば県戦略」のパブリックコメントが、始まりました。
（１）募集期間　　平成２０年１月２５日（金）～２月１５日（金）
（郵送は当日消印有効）
（２）公表資料　　生物多様性ちば県戦略（案）
詳細は以下の HP をご覧ください。
http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_shizen/tayosei/publiccomment/bosyu080125
（３）千葉県環境生活部自然保護課　　電話　043-223-2956

実践者をふやすことを願って 30 数年

松戸市消費者の会　会長　文入加代子

「地球温暖化」の脅威は、あらゆる場面で報道され、多くの人々の共通認識になってきたように思えます。「不都合な真実」の上映や「IPCC」もよく聞かれ、京都議定書など大きな視点も、話題にしやすい雰囲気でもあります。身近な問題での某調査では、「レジ袋辞退者」の割合は確実に増え、主婦層に限ると 68%という高さです。今後の地球温暖化防止、低炭素・資源循環型社会への取り組みに大きな期待がもてます。

私たちの取り組み経過・・・当時の熱意を、今に続けることを目的にふりかえります

1973 年の「オイルショック」直後のスーパーストアで目にしたあまりの多くの発泡スチロール等のトレイ使用に愕然としたことが切っ掛けでした。市内や近隣の大型販売店での過剰包装調査をもとに、市内大型店との何度もの交渉の結果、以下の点を実現させることができました。

◎1978 年、「不燃物回収箱」を全１３店に設置。「ごみを買わされている」として、資源保護・ごみ減らしの観点から、販売店に自粛を要望し続けた結果です。

◎1978 年、「レジ袋辞退者」への「スタンプカード制度」を１店が実施。私たちは「会の袋」を持ち歩き、キャンペーンに力を入れ、1990 年に５店舗が同制度を実施。私たちは当初から「レジ袋は要らない」だけで、省資源のために「カード」を作ることに抵抗はありましたが、盛り上げツールとしての対処です。

◎「牛乳パック類」について、県内では初の販売店頭を回収拠点として実現しました。その後はレジ袋の有料化の交渉を続けました。今はリターナブル瓶への回帰を願っています。デポジット制度や千葉大学生等の提唱の「R ドロップス」に期待しています。

そして今レジ袋有料の条例制定した自治体もあり、レジ袋削減取り組みはすすんでいます。私たちは、会独自で年に数回、また松戸市との共催で年 8 回の「レジ袋辞退・買い物袋持参　キャンペーン」を実施しています。

環境講座や消費者・食育講座等で、フードマイレージの観点での地産地消など様々な視点とともにレジ袋対策を話題にしています。今年度内に

も国土交通省「テクノ館」、もったいない運動推進など数ケ所で、展示・啓発します。子どもたちなど参加者と環境についてどんな話しを展開させることができるか楽しみです。

消費者団体として30数年運動してきたことが、やっと全国展開してきました。更にひとりでも多くの人たちに「実践」を訴え、グリーンコンシューマーを増やしていくことが重要なことでしょう。

昨年５月から「ペットボトルキャップ」の回収を町会の取り組みへつなげましたがごみ減量をめざす県域の「GONET」との連携をすすめています。また環境省の「３R 推進マイスター」の委嘱を受けて、地道に賛同者・実践者を増やしていく予定です。

7 月の洞爺湖サミットや千葉県で開催する G20 などは、意識だけでも仲間を増やすきっかけとなり得るので大いに活用したいものです。

「環境パートナーシップちば」が、県域で市民団体の連携を促進し、行政や企業との協働を積極的にすすめていることが非常に心強いことです。個人会員、団体会員として参加がなかなかできませんが、私には大きな心の拠り所となっています。

10 周年を迎えることで、更に仲間が増え、ますます活動が広がることを期待しています。勿論、会員としての認識を少しでも・・・と思いながら。

これって　まさしく　中学生徒のまちづくりだ。
四街道北中学の活動から思う

四街道きれいにする会　高橋　晴雄

去る１２月１５日四街道北中学の全生徒が自分のまちに繰り出してごみひろいをおこなった。拾ったところは彼らにとっては生まれ育った地域であり、普段友達と遊んだり通っているところ、彼らにとってはふるさとである。北中はまさにふるさとつくりをしていることになる。

１年生は４方向①ＪＲ駅方面②内黒田方面③さくら病院方面④栗山方面にわかれて「ビニールゴミ」「燃えるゴミ」「かんびん」「ペットボトル」の４種類のごみをひろった。
２年生は中央小学校区、栗山小学校区、大日小学区内の公園や集会所、神社や区民会館など２４ヵ所に集積地を置き、生徒や父兄が家庭から持参したものを生徒がラベル、キャップを分別した。それを校長の高橋先生、教頭先生が車で集めてまわった。これに同行させてもらったが以下の写真でごらんのように父兄と生徒と校長さんが気軽に話しているのが印象的だった。３年生は受験が近いこともあってか外にでず、構内の清掃であった。４００名を超える生徒たちの取り組みはおそらく四街道では始めてのとりくみではなかろうか。
ゴミを拾った感想は?　と１年生に聞いてみました。「畑のおじさんにほめてもらった」と。これだと思った。

（あつめてきたよ～１年生）

中学生も立派な市民。同じ市民として「いいことをしているね」と声賭けあうことはすがすがしい。
褒めることが出来る（きれいにする会のおじさんおばさん）にもっときてもらえばよかった。今まで　四街道では四北高に始まり四高、敬愛高愛国学院校の生徒の取り組みがあった。未来をつくる若い市民に応えるのは　市や教育委員会はもとより私たち大人の番だとおもった。四高生が駅前の清掃のとき銀行の支店長さんが出てきて声援をおくっていた。みんなその気になればできるのではないか。きれいにする会　の１２月のゴミゼロは５０回記念だった。勝手に自分の家からゴミを拾って駅まで歩いた。６０回は１００人以上で散歩がてらゴミを拾ったら面白いだろうなー。

（集めたペットボトルを洗う２年生）

（集積場所の公園で、親たちと）

運営委員会だより

12月運営委員会議事録

日時：19年12月12日(水)
場所：船橋市女性センター　第2会議室

報告事項
1)エコメッセinちば　環境大臣賞受賞
2）花見川エコウォーキング開催
3）京葉地区ガールスカウト活動
4）印旛沼わいわい会議開催
5)環境シンポジウム千葉会議　開催
日時：11月4日(土)　プレシンポ　日時：11月18日（土）メイン・シンポ

協議事項
1）だより59号について
2）印旛沼環境基金報告会
日時：1月24日(木)
会場：千葉県北総県民センター
内容：「印旛沼をきれいにする活動」報告。
3）　環境 パートナーシップフォーラム開催について
4）G20について
3月9日（プレG20）展示参加
5）次回エコサロン
2月予定
6）企業セミナー開催
NPOと企業との協働についてのセミナー
7）2008年度の活動
8）その他
エコメッセ受賞のお祝いの会

1月運営委員会議議事録

日時：20年1月28日(月)
場所：船橋市フェス

報告事項
1）印旛沼環境基金報告会
2）企業セミナー開催
3）エコメッセ受賞のお祝いの会
4）県とNPOの協働事業意見交換会への参加申し込み
5）第1回ちば環境学習ネットワーク会議開催（当会からも参加）
日時：1月25日(金)
千葉市ビジネス支援センター　会議室
内容：千葉県環境学習基本方針の環境学習推進体制「ちば環境学習ネットワーク会議」へ、地域、学校、事業者、行政、NPO、などの主体からの公募などにより、参加者が決まり環境学習に向けての話し合いの場が開かれることになった。

協議事項
1）環境パートナーシップフォーラム
2）プレG２０(３／９)の展示参加申し込
3）次回エコサロン
日時：2月26日(火)
会場：千葉市市民活動センター会議室。
話題提供者：中村　俊彦氏
テーマ：生物多様性と人類の危機
4）２００７年度のまとめと２００８年度の方針(次回検討)
5）その他
・印旛沼環境フェアーへの展示参加
日時：2月23日(土)
場所：佐倉市おいせ公園　展示内容：当会の印旛沼をきれいにする活動紹介

お知らせコーナ

千葉県印旛沼流域水循環健全化会議
みためし行動 冬期湛水調査 中間報告会

日時：2月6日（水）13：30～16：30
場所：印旛沼土地改良区　2階大会議室
定員　：　先着50名
内容：・分野別調査報告
・ふゆみず田んぼにおつきあいして
・　総合討論
― 水と田んぼと生物多様性 ―
後援：ちば多様性県民会議
お問い合わせ：
小倉久子（千葉県環境研究センター
e-mail：　h.ogr3@mc.pref.chiba.lg.jp）
木村賢文（千葉県河川環境課）
TEL：　043-223-3155

‘08いんば沼シンポジウム
「印旛沼！なにを残し･･･なにを伝えるか･･･？」

日時：２月１７日(日)　１０時～１６時
会場：成田国際文化会館
主催：印旛沼環境基金・成田市
申し込み・問い合わせ：(財)印旛沼環境基金
TEL：043-485-0397
http://homepage2.nifty.com/inbanuma/

Ｇ２０千葉２００８記念事業
環境パートナーシップフォーラムを開催します！

日時：３月２５日　午後１時～４時５０分　会場：きぼーる　第3会議室　定員：６０名
主旨：温暖化防止、生物多様性への取り組みには、市民・企業・行政のパートナーシップがますます必要です。パートナーシップについての国や県での施策、現状、課題を知り、よりよきパートナーシップ型環境保全を目指して、「環境パートナーシップフォーラム」を開催します
主催：環境パートナーシップちば　参加費：無料
お問い合わせ：桑波田　TEL＆FAX：043-258-543　E-mail：kuwahatak@hotmail.com

（プログラム）※詳細は後日お知らせいたします。
基調講演　「環境パートナーシップ推進事業」　環境省　パートナーシップ推進室
環境パートナーシッププラザからの報告　環境パートナーシッププラザ
千葉県における環境パートナーシップ　千葉県環境生活部
千葉におけるパートナーシップの歩み(事例から)
「環境シンポジウム千葉会議」・「エコメッセちば」・「環境パートナーシップちば」
ワークショップ
「よりよきパートナーシップを推進するために！」

パートナーシップで活動している団体の方、是非ご参加くださ

「未来は変えられる！」

草の根提案への参加を！
日時：2月7日（木）13時～15時30分、
会場：　千葉市文化センター
主催：環境シンポジウム千葉会議実行委員会
会費：無料　定員：８０名（先着順、無料）
申込と照会：
FAX：０４７－３３６－３７８５、
TEL：０９０－３０４９－９３３５,
E-MAIL：chibakaigi@hotmail.com

第５回 印旛沼再生行動大会
～めぐりめぐる印旛沼の水～

日時：　２月２２日、２３日
場所：佐倉市民音楽ホール
御伊勢公園(音楽ホール隣)
主催：千葉県
印旛沼流域水循環健全化会議
※詳細は以下のホームページをご覧ください
http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/i_kakai/inbanuma/04event/koudoutaikai_syusi.htm

会計より

★平成１８年度、１９年度の会費未納の方へ、振込み票を同封いたします。当会は皆さまの会費により運営いたしております、納入の方よろしくお願いいたします。事務処理の関係上、１月２０日現在でお知らせいたします、行き違いの際はご了承ください。また照会などございましたら、担当までお知らせください。
担　当：桑波田　Tel&fax：043-258-5437　E-mail:kuwahatak@hotmail.com

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

千葉県環境財団　環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		